



FAEGER

**営農改善と新たな還元収入を両立！
フェイガーと取り組むカーボンクレジット活用術**

2026年10月
株式会社フェイガー

OUTLINE

1. フェイガー社について
2. フェイガーのクレジットプログラムの魅力
3. AG-005（水稻・中干し延長）の取り組み
4. AG-004（バイオ炭の農地施用）の取り組み
5. 会員登録とサポート体制

会社概要

世界をもっとサステナブルに。
社会にもっとフェアネスを。

私たちは、持続可能な農業の実現のため、
農業界のカーボンクレジットの活用と、
環境適応のための支援を行っています

社名	株式会社フェイガー (英語表記 Faeger Co. Ltd.)
本社所在地	〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル3階 0 Club
電話番号	+81 (03) 6824 -0769
創立	2022年7月
資本金	1億円 (2025年6月現在)
主要株主	インキュベイトファンド、環境エネルギー投資、 JIC-VGI、東京海上ホールディングス、鈴与商事、 農林中金キャピタル、住商ベンチャーパートナーズ、 みずほキャピタル
チーム	約80 名 (業務委託含む)
事業内容	農業由来クレジットの生成と販売 環境配慮型農業の推進に資するサービスの提供

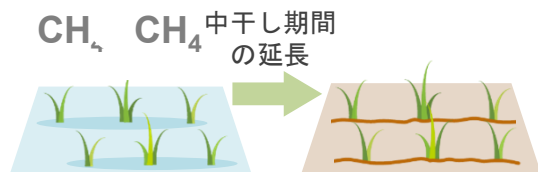
プロジェクト概要

フェイガーは、支援機関の皆さまとともに、農業由来のJークレジット創出に取り組んでいます。

AG-005 水稻栽培における中干し期間の延長

取組

中干しを7日間延長し、メタンガス（CH₄）を削減



特徴・実績

- 国内最大級の実績：1,776農家 / 約22.6万t-CO₂超を創出
- 大規模発行：デジタル化により大規模のJークレジット発行を実現できる体制を構築

AG-004 バイオ炭の農地施用

取組

未利用バイオマスを炭化し、炭素を土壌に100年以上固定



特徴・実績

- 高い環境価値：ネットゼロに不可欠な「永続性の高い吸収除去系」
- 営農メリット：東京都事業等で実証済み／農家の収量・生産性向上と両立

連携パートナー

<役割>

- ・脱炭素農業に取り組む農家の紹介
- ・農家のJークレジット申請のサポート
- ・削減活動のモニタリング協力

都内での連携



東京海上日動 西東京支店



JA東京中央会



八王子市
HACHIOJI CITY

TAMA INNOVATION
ECOSYSTEM



等、更なる連携先を獲得

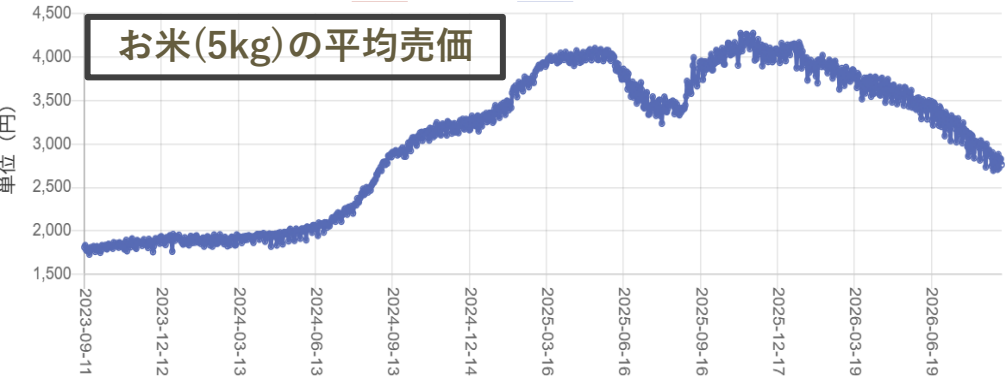
OUTLINE

1. フェイガー社について
2. フェイガーのクレジットプログラムの魅力
3. AG-005（水稻・中干し延長）の取り組み
4. AG-004（バイオ炭の農地施用）の取り組み
5. 会員登録とサポート体制

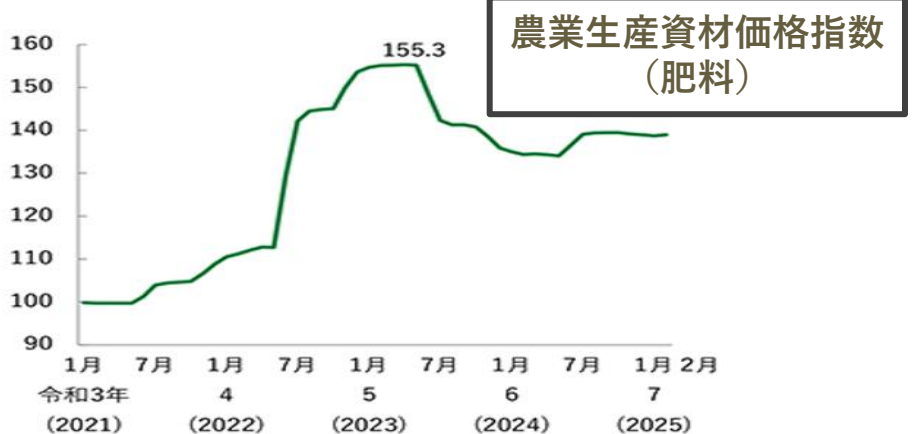
農業現場を直撃する「コスト高騰」と「気候変動」の二重苦

資材高騰による「経営リスク」と、猛暑による「品質低下」が同時に進行。自助努力のみでは営農継続が困難。

米価の乱高下と資材高騰に直撃される農家経営



出典：株式会社マーチャンダイジング・オン RDS-POSスーパー全国



資料：農林水産省「農作物価統計調査」注：1) 令和2(2020)年の平均価格を100とした各年各月の数値 2) 令和6(2024)、7(2025)年は概数値

猛暑・高温障害による収量・品質の低下が深刻化

稲作農家 1,138名調査 (2025年)

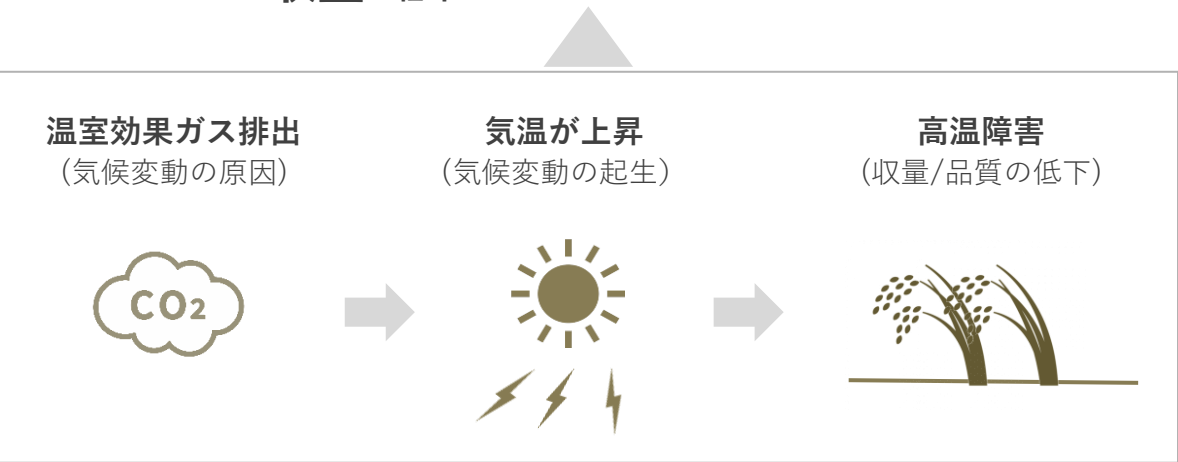
猛暑・気候変動による農家被害が顕在化

33.6%

収量が低下

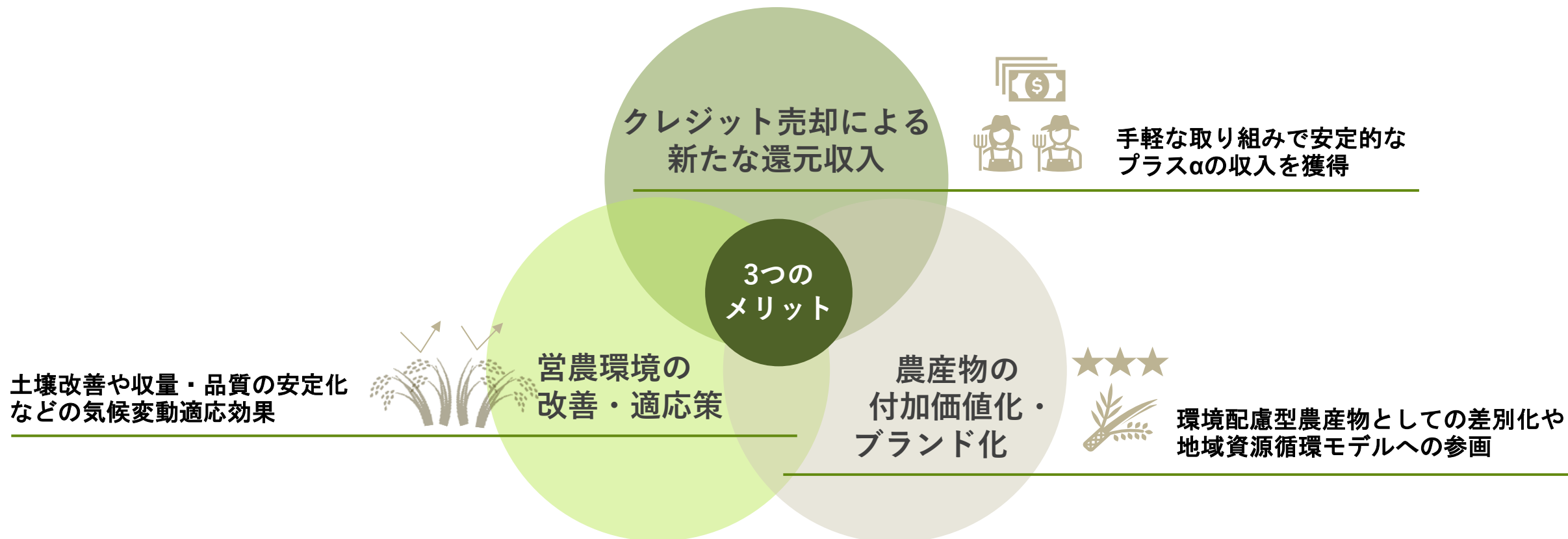
36.7%

品質が低下



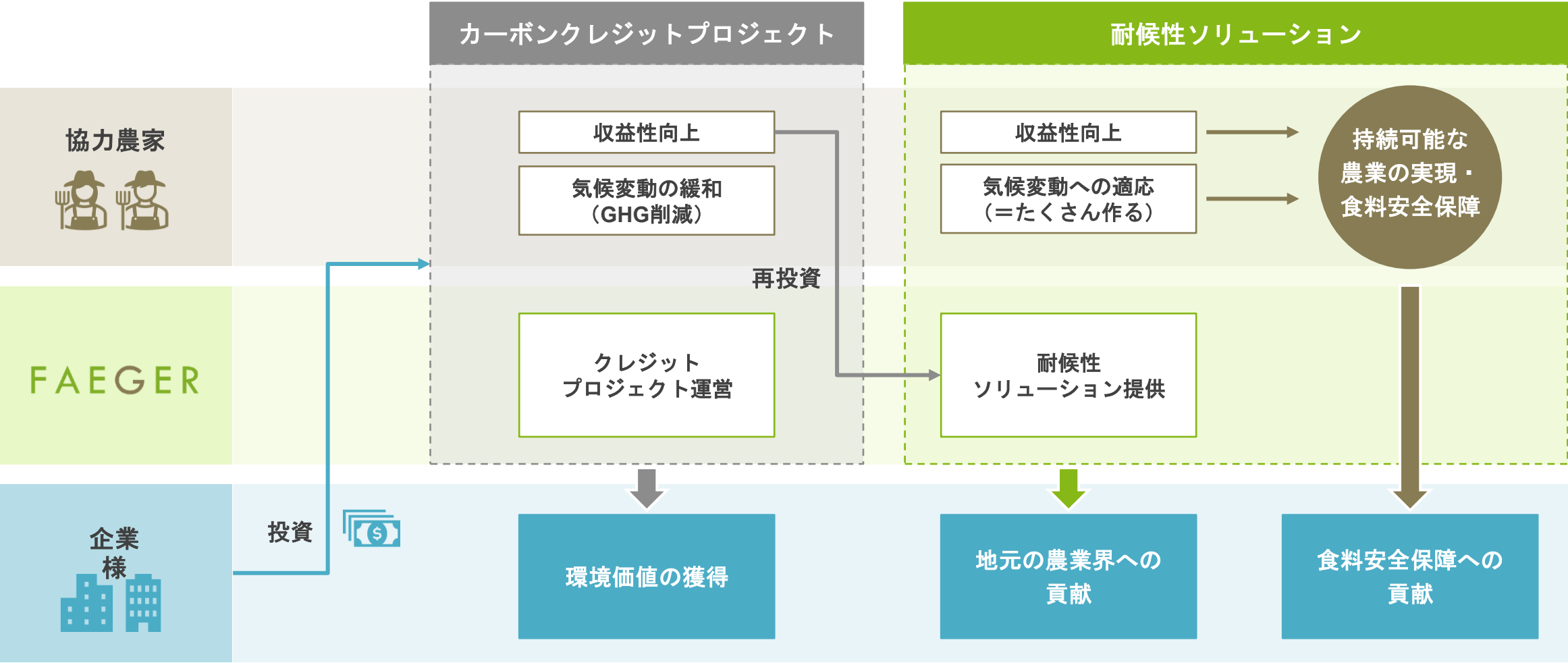
「環境貢献」に終わらない3つの複合メリット

農家にとってのメリット



フェイガーのビジネスモデル

持続可能な農業を、カーボンのクレジットのプロジェクトと耐候性ソリューションの2つで実現する



プログラム型プロジェクトだからできる「丸投げ」体制

- 通常型プロジェクトでは成立しない採算性や申請に係る負荷を、プログラム型プロジェクトに登録しているフェイガーが負担します



個々の農家・農業法人が単独でJ-クレジットを申請するのは現実的ではない

申請書類が膨大（数百ページ）

審査費用が高額
（数十万～百万円単位）

モニタリング（記録）が複雑



面倒な手続きをフェイガーに丸投げ。
農家は事務負担や初期費用を最小限に抑えてスタート可能

クレジット認証手続きを代行

FAEGER

企業への販売交渉も実施

農家視点でモニタリングサポート

J-クレジットにおける農業分野の方法論

方法論		概要		現状
農業全般	✓ バイオ炭の農地施用	AG-004	難分解性のバイオ炭を農地に埋め込み、土中に炭素を蓄積	プロジェクト登録20社弱・数千トンの認証事例あり
	✓ 中干し延長	AG-005	中干しを1週間延長し、メタン発生量を削減	プロジェクト登録30社弱・農業由来最大の認証量
水稻	✓ 秋耕	(実証実験中)	秋に稲わらをすき込んで分解を促進し、メタン発生を抑制	実証実験中であり、1-3年の間に方法論が登録される見込み
	✓ 乾田直播	(実証実験中)	乾田直播により耕起を抑制し、土壌有機炭素の分解を抑制	
畑作	✓ 茶園N2O排出抑制	AG-003	窒素肥料に硝化抑制剤を混ぜることでN2O発生を抑制	フェイガーが国内初のプロジェクト登録完了
畜産	✓ 排泄物管理	AG-002	畜産排泄物を適切に管理してメタンやN2O発生を抑制	プロジェクト登録2社・数千トンの認証事例あり
	アミノ酸バランス飼料	AG-001	飼料のアミノ酸バランス最適化により排泄物からのN2O発生を抑制	プロジェクト登録2社・数百トンの認証事例あり
	✓ 牛ゲップ削減	AG-007	飼料に添加物を加えることで牛ゲップ内メタン発生を抑制	2026年2月に方法論登録
	バイパスアミノ酸給餌	AG-006	肉用牛にバイパスアミノ酸添加飼料を与え、肥育期間が短縮。N₂O,CH₄減	2023年11月に方法論が登録されたものの、規模は比較的小さい

OUTLINE

1. フェイガー社について
2. フェイガーのクレジットプログラムの魅力
3. **AG-005（水稻・中干し延長）の取り組み**
4. AG-004（バイオ炭の農地施用）の取り組み
5. 会員登録とサポート体制

AG-005

水稻栽培における中干し期間の延長



水田の中干し延長による温室効果ガス削減とは？

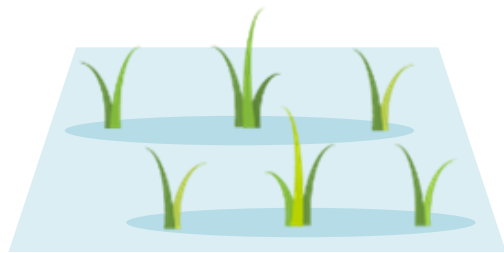
水稲の中干しを過去2年間の平均より「1週間延長」するとメタンガスの排出量が「30%減」る

生産者様は、中干し延長の実施により「日本の温室効果ガスの削減に貢献」

さらに、クレジット収入を活用して、「生産コストの低減」や「雑収入」として活用可能



通常の中干し



CH_4

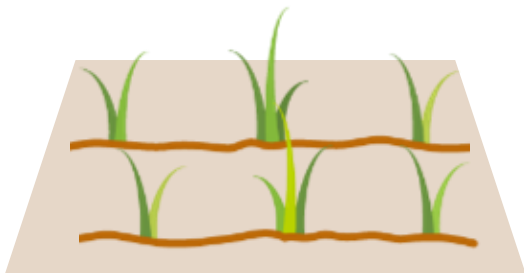
CH_4



CH_4 は CO_2 より
25倍温室効果が高い

湛水（嫌気）状態で、メタン生成菌が活性化

中干しの延長



CH_4

中干し期間の延長により、
メタン生成が抑制される



【削減方法】

- 水稲の栽培期間中に水田の水を抜いて田面を乾かす「中干し」の実施期間を従来よりも延長することで、土壌からのCH₄(メタン)排出量を抑制する。

【適用条件】

- 水稲栽培において、中干しの期間を、プロジェクト実施水田におけるプロジェクト実施前の直近2か年以上の実施日数の平均より7日間以上延長すること。

【ベースライン排出量の考え方】

- 水稲栽培における中干し期間の延長を実施しなかった場合に想定される温室効果ガス排出量。

【主なモニタリング項目】

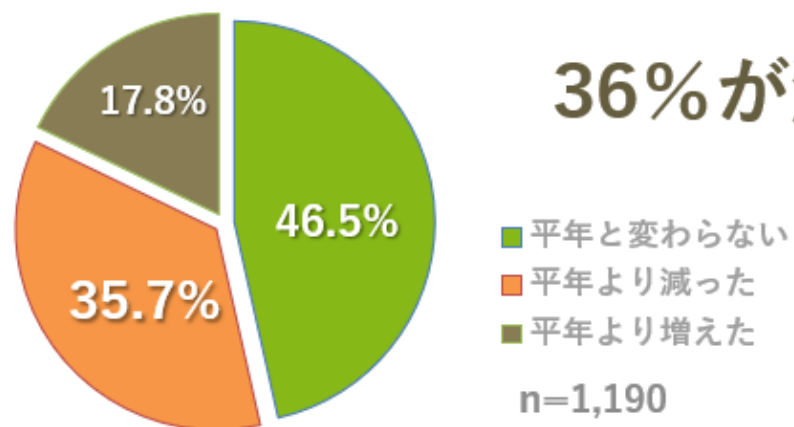
- ① プロジェクト実施後の水稲作付面積
- ② プロジェクト実施後・ベースラインのCH₄排出係数を決定するために必要な以下の事項
 - ・ 水田の所在地域
 - ・ 水田の排水性
 - ・ 水田の水管理
 - ・ 水田の施用有機物
 - ・ 水田の中干し期間の延長の実施有無

【方法論のイメージ】

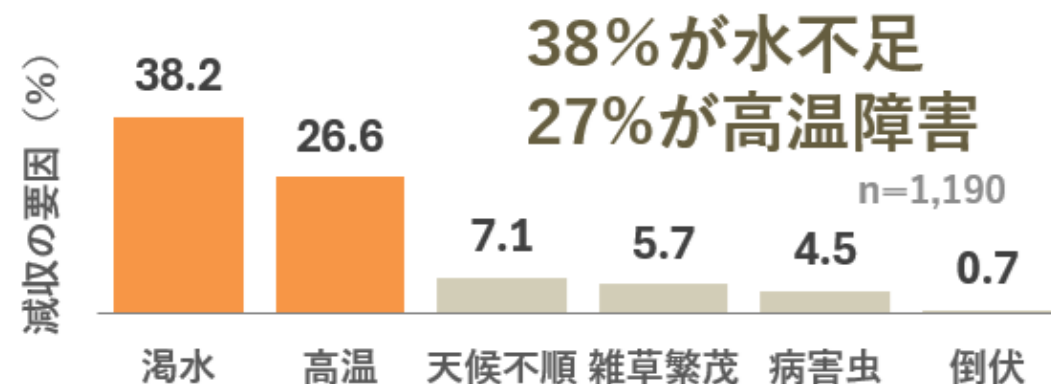


水稻における気候変動の影響（農業者の課題）

玄米収量

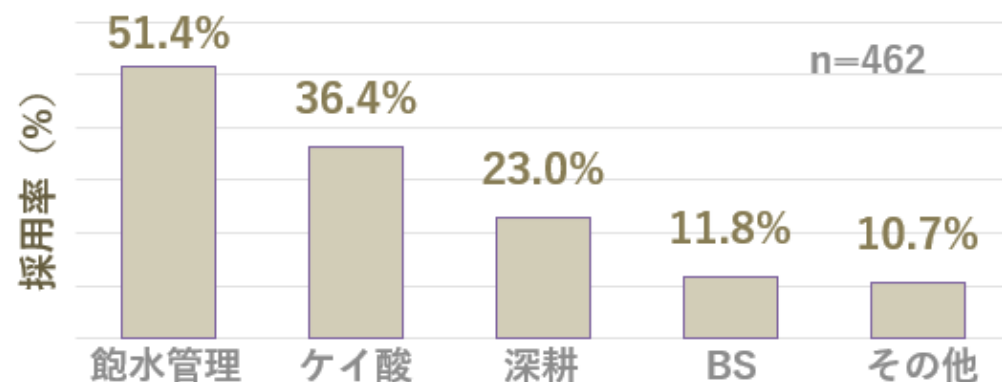


収量低下の原因



農業者が採用している高温対策技術

個別技術の採用はあるが体系化されていない



包括的な技術体系の導入への意欲と課題

新技術導入への意欲はあるが、自身ではリスクを取りづらい

89%

新技術導入（対策）への意欲はあるか？

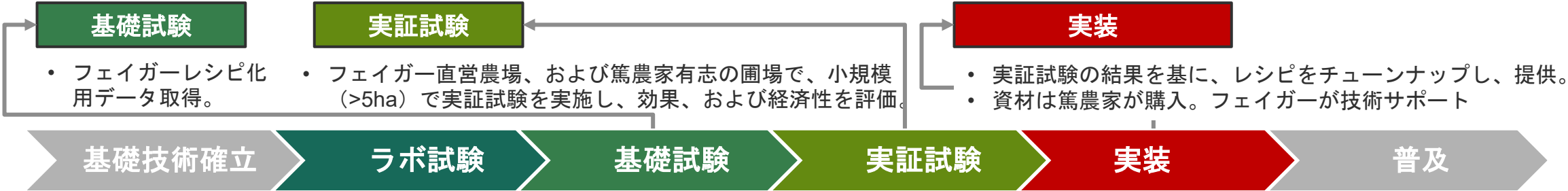
63%

実証試験への参加への意欲があるか？

n=1,138

フェイガー農業支援サービス

気候変動による影響を緩和・軽減するための**耐候性レシピ**を開発し、**農家との実証試験**を通じて、効果と経済性を検証し、普及に臨む。レシピは、単一の技術・サービスの提供ではなく、営農形態・栽培環境・課題に合わせて、複数の技術を組み合わせることで、生産性を最大化するために設計する。



メーカー	● 知財開発・管理	● 遺伝子動向 植物生理	● 技術情報提供	-	● 商流・在庫管理	-
フェイガー	-	-	● 試験実施	● 試験運営 技術支援	● 技術営業・管理 発注/在庫管理	● 説明会開催
篤農家	-	-	-	● 圃場管理	● レシピ導入 (資材)	● 説明会参加
一般農家	-	-	-	-	-	● 説明会参加

農家の負担を最小化する導入サポート体制

「システムの自動化・デジタル化」と「現場に寄り添う個別サポート」で、あらゆる農家様の参加ハードルを取り除きます

申請システムの アプリ化



スマホ1つで記録・書類
提出まで完結。簡単・
便利！

水位センサー とのシステム連携



代表圃場に水位センサー
を立てれば、申請システ
ムとデータ連携。日減水
深・中干し開始・終了写
真が不要に。

申請書類の 提出方法の多様化



提出書類の枚数が多い
場合、デジタル化が難
しい場合の受付体制を
整備。

申請サポート コンテンツの拡充



申請カレンダーや動画
コンテンツ、日減水深
用スケール配布等のコ
ンテンツを拡充。

困ったらすぐ聞ける 電話サポート体制



専任スタッフがサポー
ト。わからないことや
不安なことをすぐに解
決！

【水田の中干し延長】J-クレジットの収入金額の算出方法

J-クレジットでの収入金額（単年）

※プロジェクト開始から最大8年間生成可能

収入金額の計算式

クレジットの
取引価格

(円/t-CO2)

クレジット事業者
によって異なる

x

クレジットの
生成量

(t-CO2/ha)

地域、有機物投入有
無、排水性による

x

対象面積

(ha)

申請する
耕作面積

x

(1 - 手数料率)

(%)

クレジット事業者
によって異なる



OUTLINE

1. フェイガー社について
2. フェイガーのクレジットプログラムの魅力
3. AG-005（水稻・中干し延長）の取り組み
4. **AG-004（バイオ炭の農地施用）の取り組み**
5. 会員登録とサポート体制



AG-004

バイオ炭の農地施用

バイオ炭とは？

燃焼しない水準に管理された酸素濃度の下、350℃超の温度でバイオマスを加熱して作られる固形物。
J-クレジットにおいて除去系クレジットとして手法が登録されている。

1

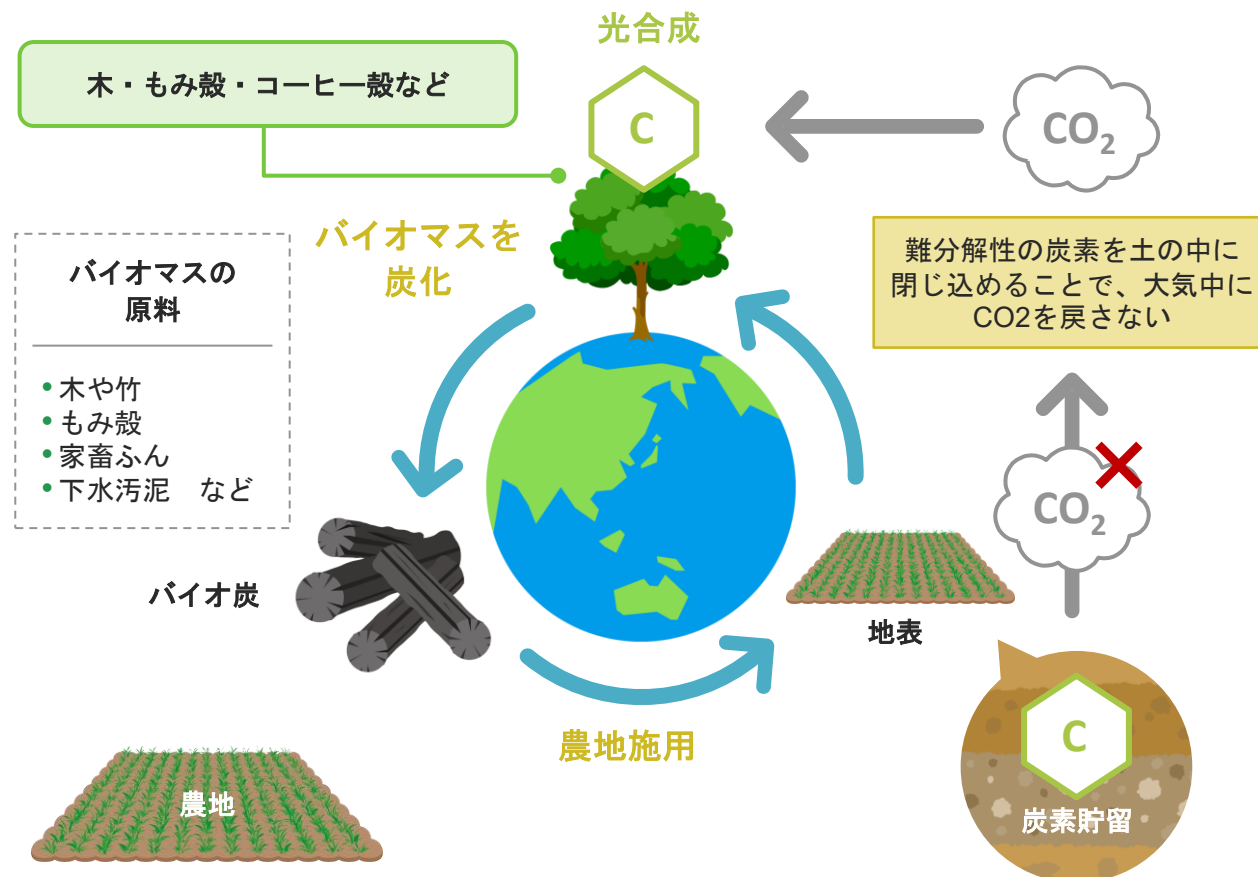
バイオ炭化によって炭素がCO₂に戻るのを回避

本来なら燃焼や破棄によって短期でCO₂として空気中に戻っていたバイオマス(炭素)が炭化され、CO₂として戻るのを回避する。

2

バイオ炭の農地施用によって炭素を貯留

バイオ炭は農地／土壌に入るその多くの炭素が数百年間分解されずに貯留され続ける。



【方法論の対象】 ● 本方法論ではバイオ炭を農地に施用することで難分解性の炭素を土壤に貯留する活動を対象とする。

【主な適用条件】

- ① バイオ炭を、農地法第2条に定める「農地」又は「採草放牧地」における鉍質の土壤に施用すること。
- ② 施用するバイオ炭は、炭素含有率及び100年後の炭素残存率のデフォルト値が適用できる種類であること、又はそのようなデフォルト値が適用できる原料及び製炭温度により製造されたものであることが、客観的に確認できること。
- ③ バイオ炭の原料は国産であり、塗料、接着剤等が含まれていないこと。また、他に利用用途のないものであること（燃料用炭の副生物等も対象）。

【クレジット量の算定】 ● CO_2 貯留量（＝施用したバイオ炭の量×炭素含有率×バイオ炭の100年後残存率×44/12）
－バイオ炭の輸送・製造等に係る排出量

● バイオ炭の品質は、以下①～③のいずれかの方法で固定炭素比率又は精煉度※（0～9であること）を測定することで担保することとする。（妥当性確認時又は初回検証時）

【バイオ炭の品質の確認方法】

- ① 木炭精煉計等を用いて炭化の度合い（電気伝導度）を測定する。
- ② 工業試験場等で「JIS M 8812:2004 石炭類及びコークス類－工業分析方法」に基づき固定炭素比率を測定する。
- ③ 日本バイオ炭普及会規格「土壤炭素貯留用バイオ炭－測定法－」に基づき固定炭素比率を測定する。

※炭化の度合いを示すもので、木炭表面の電気抵抗を測り、0～9の10段階で表示したもの

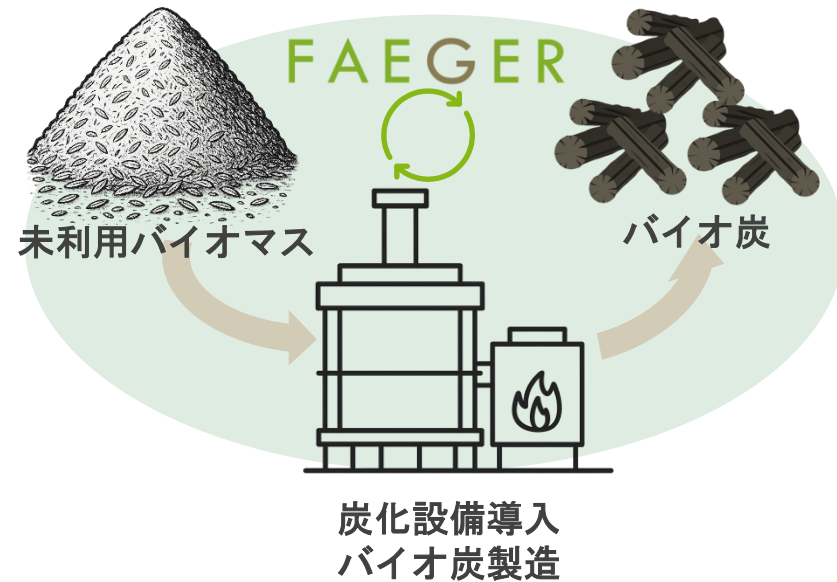
【方法論のイメージ】



フェイガーのバイオ炭サービス

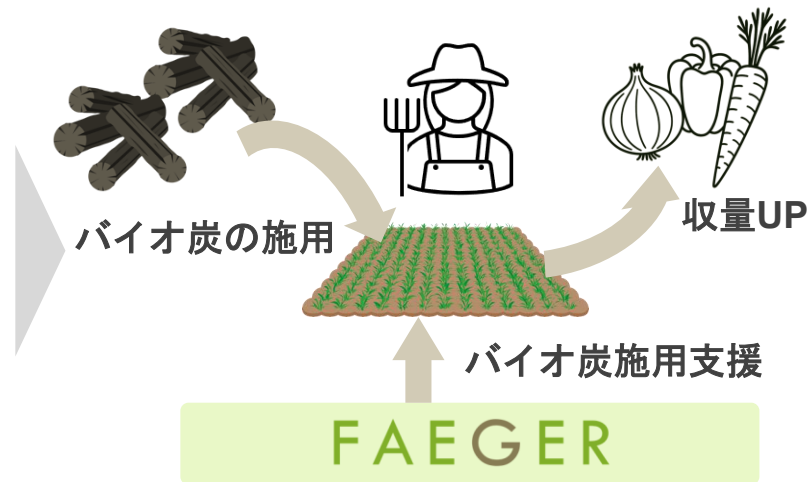
バイオ炭の製造体制の構築、バイオ炭施用、カーボנקレジット創出・販売までを一貫して提供。

①バイオ炭の製造モデル構築サービス



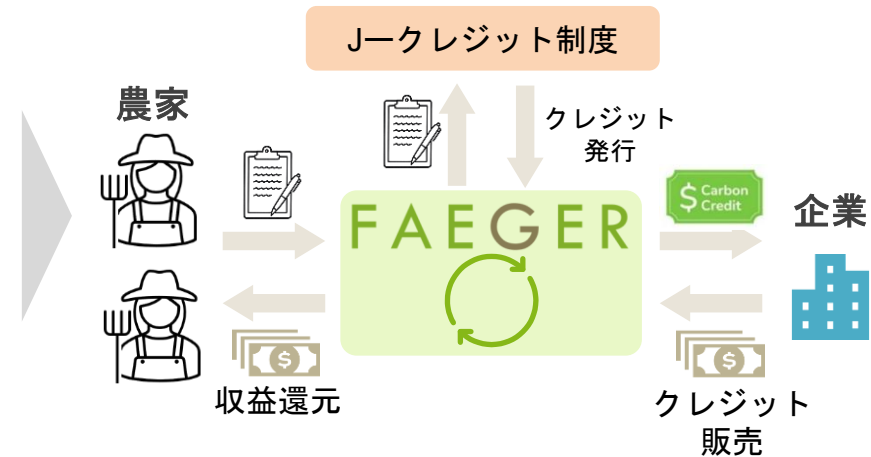
- ・ バイオマス処理課題等の地域課題解決に繋がるバイオ炭製造モデルの構築支援
- ・ 複合的な課題解決により、**バイオ炭製造コストの削減**
- ・ 輸送距離の最適化により**輸送費・CO2排出量を最小化**

②バイオ炭の施用支援サービス



- ・ **作物品目・栽培方法に合わせてバイオ炭施用効果を最大化**を支援
- ・ 適切なバイオ炭施用方法・施用量のご案内
- ・ 機能性バイオ炭レシピによる収量・対候性向上等

③カーボנקレジット創出・販売

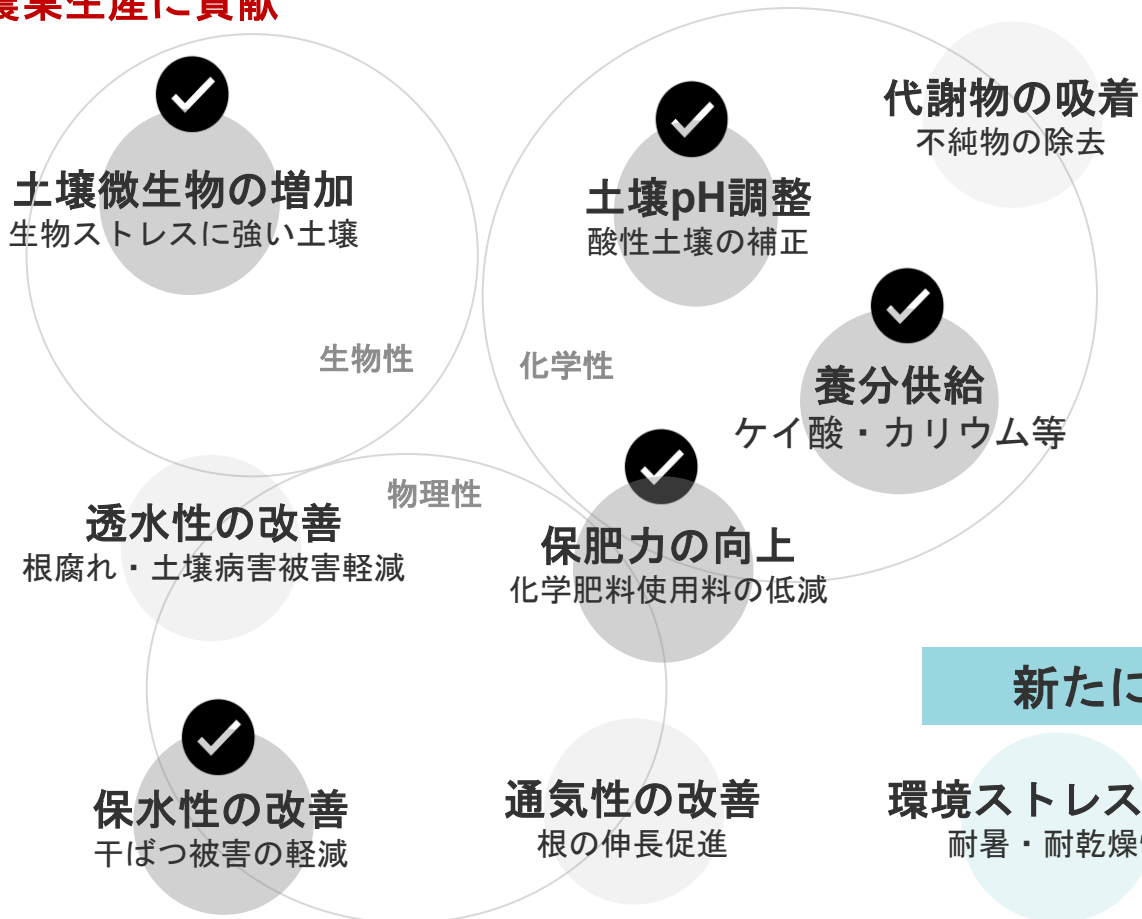


- ・ **生成から販売まで一貫したサービス**を行うことで、高品質な環境価値・地域貢献価値を付与し収益向上を可能とする

バイオ炭の農地施用による土壌への効果は？

バイオ炭施用により、「**土壌pH調整・保肥力の向上（養分供給）**」「**保水性（透水性・通気性）の改善**」「**土壌微生物の増加（炭の多孔性）**」などの土壌改良効果があるとされる。

農業生産に貢献



+26.3%

新たに付与したい機能

環境ストレス耐性
耐暑・耐乾燥性

生産性向上機能
減肥・収量増加

導入ハードルの解消サポート

<八王子農家の取り組み事例>

- 実証事業期間だからこそ得られるお試しサービス
八王子市職員「東京都の少ない農地の中で、付加価値を向上できる取り組みは面白い」
実証農家「燻炭（バイオ炭）の農地への効果は聞いたことがあるが、試すことができて良かった」
- 現在使っている（馬糞）堆肥と組み合わせることで、さらなる肥料効果の向上が期待できる
「バイオ炭だけを施用（撒く）手間よりも、堆肥と一緒に施用するのであれば、効率的だ」
「馬糞堆肥の用途にも限界があるので、使いたい人が増えることに繋がるかもしれないね」



気候変動の緩和と適応を両立するフェイガーの「営農レシピ」

新たな「還元収入（経済支援）」と「気候適応策」が急務。現場のニーズに応じ、技術・資材・データを最適に組み合わせた横断ソリューション「営農レシピ」を提供



【バイオ炭の農地施用】J-クレジットの収入金額の算出方法

J-クレジットでの収入金額

収入金額の計算式

※期間・回数の制限なし



クレジットの
取引価格

×

炭素貯留量

×

(1 - 手数料率)

(円/t-CO₂)

(t-CO₂)

(%)

クレジット事業者
によって異なる

バイオマス原料、製
炭温度、付随的排出
CO₂による

クレジット事業者
によって異なる

炭素貯留量 = プロジェクト実施後のCO₂貯留量 - プロジェクト実施によるCO₂排出量

※ベースラインのCO₂貯留量は、
農地にバイオ炭が施用されなかった場合の貯留量 0 とする。

土壌に投入されたバイオ炭の量 (t) × 炭素含有率 × 100年後の炭素残存率^{*1} × 44/12

バイオ炭原料やバイオ炭の運搬等により排出されるCO₂

^{*1} : 投入後100年間に分解・排出される炭素量をあらかじめ差し引くもの

OUTLINE

1. フェイガー社について
2. フェイガーのクレジットプログラムの魅力
3. AG-005（水稻・中干し延長）の取り組み
4. AG-004（バイオ炭の農地施用）の取り組み
5. 会員登録とサポート体制

カンタン参加ステップとフェイガーの代行サポート

農家さまは「通常の営農＋写真撮影・記録」のみ。認証申請から企業販売・集金までフェイガーが完全代行。

農家の皆さま

AG-005 水稻栽培における中干し期間の延長

- 1 過去の中干し期間の記録を提出する
- 2 営農計画書等の圃場情報を提出し、栽培管理グループを作成
- 3 田植え期に杭とものさしで水位測定
－ 代表圃場1筆で日減水深を測定する
- 4 中干し期間を延長し、撮影・記録
－ 栽培管理ごと代表圃場1筆で写真撮影
- 5 写真や記録をオンラインシステムを通じて提出する



AG-004 バイオ炭の農地施用

- 1 品質証明済みのバイオ炭を調達する
- 2 納品書と運搬記録書を保管
－ バイオ炭の種類と量、運搬ルートを確認
- 3 バイオ炭を農地に施用する
- 4 施用圃場を撮影し、栽培日誌に記録
- 5 各種書類や記録をフェイガーに提出

FAEGER

- 1 申請に向けた取組み支援
- 2 カーボンクレジット申請
- 3 認証取得
- 4 現金（基準価格）を生産者さまにお支払い
- 5 企業に販売

水稻の中干し期間の延長の取り組みをご希望の方へ

フェイガーHPの下部のお問い合わせ先



以下よりご要望にあったお問い合わせ項目をご選択ください。



https://faeger.company/contact/for_agriculture/



こちらから必要事項をご入力、プライバシーポリシーに同意の上、送信ボタンを押してください。

すでにご入会を検討されている方は、以下より
水稻中干し延長によるカーボクレジット収入の試算が行えます。

[クレジット収入試算に関してはこちら >](#)



こちらから必要事項をご入力、プライバシーポリシーに同意の上、送信ボタンを押してください。

※試算をされた方には弊社スタッフからご連絡させていただく場合がございますので、ご了承ください。
※同業他社様からの試算お問い合わせはお断りいたしております。

バイオ炭の農地施用の取り組みをご希望の方へ

フェイガーHPの下部のお問い合わせ先



https://faeger.company/contact/for_agriculture/



現時点でわかっている
 ・ バイオマス原料の情報
 ・ 炭化設備の情報
 ・ 施用する農地の情報
 を回答いただき、適切なご案内を致します。

FAEGER

株式会社フェイガー

CONTACT

農業でのカーボンクレジット活用に関するお問い合わせはこちら



株式会社フェイガー

TEL

03-6824-0769

e-mail

rd@faeger.co

Q 検索



<https://faeger.company/>